

コース委員会



コース委員長
常任理事

阿久澤榮一郎

ゴルフ精神の奥底にあるもの

庭の虫たちが短い命の時を慈しむかのように哀愁の弦を奏でる中秋の夜、いつものように、就寝前のルーティーンで白州のお湯割りを遣りながら、何気なく2012年のゴルフ規制をパラパラと捲っていた私の目は、ある箇所に釘付けとなりました。

それは、第1章エチケットの中の「コースの保護」の部分でした。そこには、「バンカーから出る前に、プレーヤーは自分が作ったバンカー内の穴や足跡は勿論、近くにある他のプレーヤーの作った穴や足跡も全て入念に埋め、平らにならしておくべきである。」と明記されていました。

そして、さらに「ディポット跡やボールマーク、靴による損傷の修理」の項目では、「プレーヤーは自分たちの作ったディポット跡や、球の衝撃によってパッティンググリーン面にできたボールマーク（プレーヤー自身の球によるものに限らない）を入念に直しておくべきである。靴によってパッティンググリーン面に作られた掻き傷などは、同じ組のプレーヤー全員がそのホールのプレーを終えたあとで直しておくべきである。」とありました。

「なぬ？他のプレーヤーの跡も？」と半分酩酊状態でもう一度読み直した私は、予想だにしなかった偉大なものが突然目の前に現出し、反射的に立ち上がり襟を正さざるを得なかった時のような衝撃を受けたのです。

昨年ブラジルでサッカーのワールドカップが行われました。その際、日本人のサポーターが応援に遣った袋兼用のフラッグにゴミを入れて退場した逸話が世界のマスコミを賑わしたのは記憶に新しいところでしょう。

ところが、我がゴルフの世界は、自分の足跡やディポットだけでなく、他のプレーヤーがやり残したものもリペアーしておくのがエチケットの初歩ですよ、と説いているのです。他の表現をすれば、「来たときよりも美しく。」でありましょうし、それは当然、「後のプレーヤを慮って、、、」の精神からなのです。

いつも水が散った洗面台を他人の所まで黙々とタオルで拭いているF先輩。浴室のスリッパをきちんと揃えて何もなかったかのように帰って行ったY先輩の後ろ姿を思い出しました。

これがゴルフの心を本質で理解し、マナーとして実践していることなのだ。ゴルフって凄い。富士宮GCの会員で本当に良かった。とてつもないゴルフスピリットの奥深さに気づかされた私は、バカラのグラスに極上のもう一杯を注ぎ足したのであります。「秋深し とくとくとくと 甲斐の酒」
追記／ゴルフ規則は4年に1度改訂されますが、「エチケットの章」に上記の項が加わったのは2004年の改訂の時です。

★お願い／マスター室に目土用のコンテナを用意してあります。余裕のある時は是非ご利用ください。

コース委員会

委員長	阿久澤榮一郎
副委員長	関澤紀一
委員	石田寛二
委員	遠藤能文
委員	加藤光映
委員	清哲也
委員	御宿晴彦
委員	山川綱宥
委員	渡邊清高